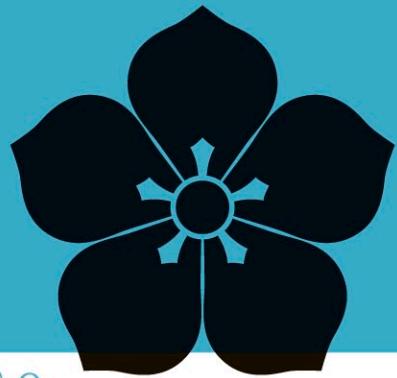


守護土岐一族の城

あけ ち じょう あと  
**明智城跡**

(市指定史跡名称 長山城跡)

AKECHI (NAGAYAMA) JO-ATO

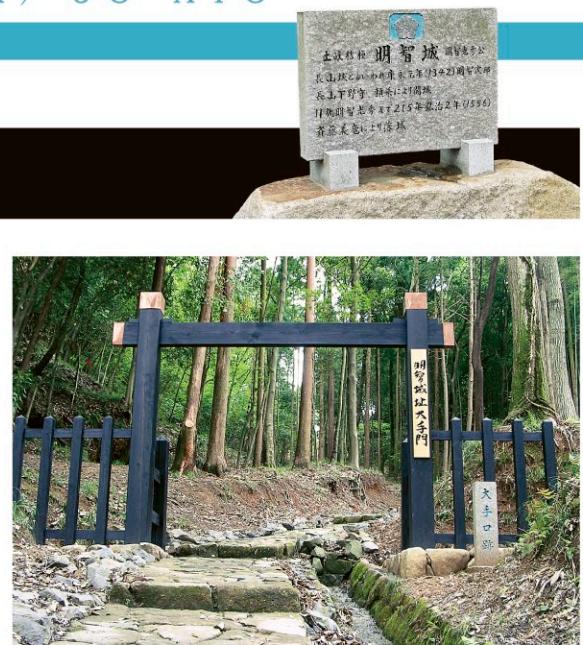


## 明智氏と明智城

現在の可児市東部から可児郡御嵩町西部にかけて、明智荘と呼ばれた地域（現在の石井、石森、平貝戸、渕之上、瀬田、柿田、顔戸、古屋敷あたり）にかかわりを持ったとされるのが土岐明智氏であり、後に明智光秀を生む一族です。室町幕府の奉公衆としての存在も確認でき、在京していた一族もいました。

後々の記録では、土岐頼兼が明智氏を名乗って、康永元年（1342）に「長山城」を築き、その子孫が代々居城にしたとあります。また、弘治2年（1556）には、明智光秀の叔父にあたる光安が城主だった時、稲葉山城主斎藤義龍の攻撃を受けて落城したとされます。

明智城一帯は、光秀が織田信長に仕えた後、再度所領として与えられ、代官として石森九郎左衛門が置かれたといいます。



## 明智城(長山城)について

美濃の守護、土岐頼清の次男である頼兼が、康永元年（1342）頃に築城したとされます。

明智城（長山城）跡主郭とされている地点は、現在配水池となっており、旧状はとどめていません。その他に、東出丸、搦手曲輪、二の曲輪、三の曲輪、西出丸、乾曲輪と伝わる場所があります。

## 城跡北麓の天龍寺

青雲山天龍寺は、曹洞宗の寺院で、寺伝によれば伝龍寺という廃寺の後に建立したと伝わっています。そこには明智氏のものと伝わる墓所が整備されています。

# あけ ちの しょう 明智莊

「明智荘」は現在の可児市北東部から御嵩町西部にかけた莊園です。明智荘北部には可児川が流れ、南部は東西に丘陵地が連なります。江戸時代には「明知八郷」と呼ばれていました。

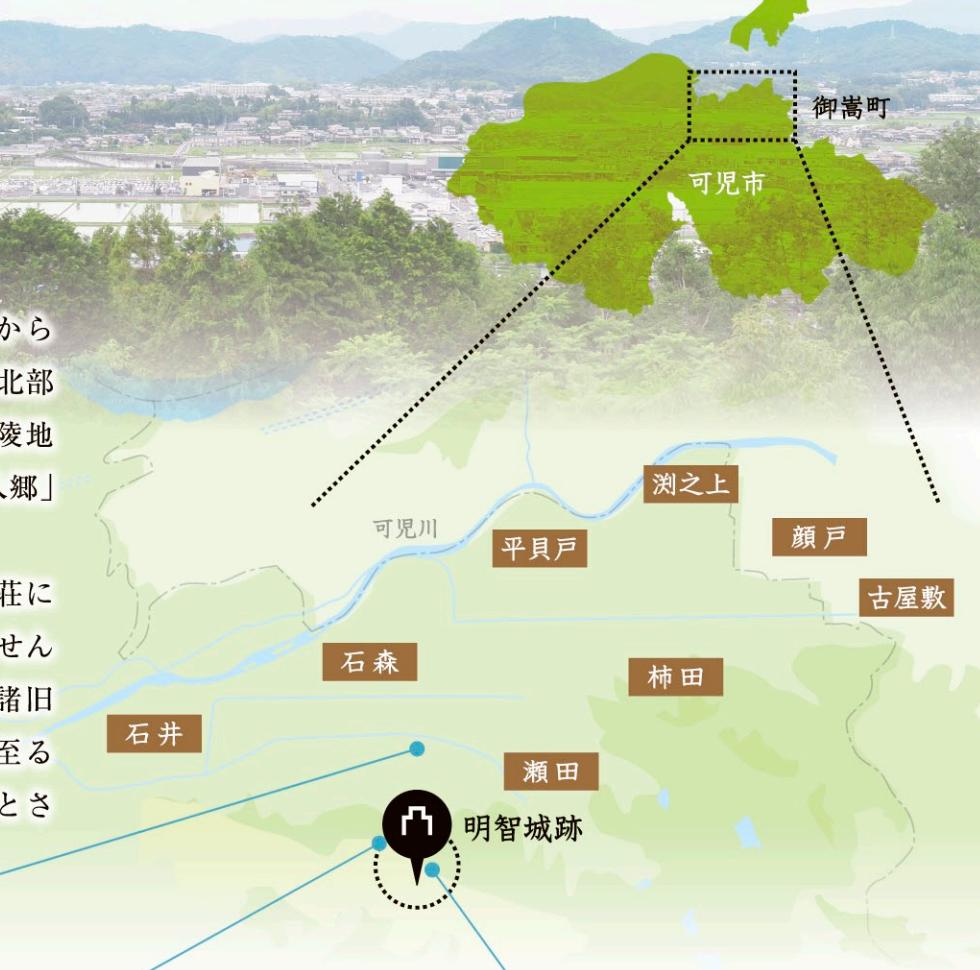
明智光秀が生きていた時代の明智莊に関する確実な史料は見つかっていませんが、江戸時代の地誌である『美濃国諸旧記』では、初代土岐頼兼から光秀に至るまで、代々土岐明智氏が住んでいたとされています。



# 伝明智光秀 産湯の井戸跡



明智荘南部の瀬田地域には、明智光秀産湯の井戸とされる伝承地が存在します。現在は田圃となっているため、旧状はとどめていません。伝承地の付近には「東屋敷」「西屋敷」「大屋敷」などの地名が残ることから、有力武士の拠点の存在をうかがわせます。



# 六親眷屬幽魂塔



明智城跡北西部の丘陵上に「六親眷属幽鬼塔」が残っています。「六親眷属」は仏教の言葉ですべての親族という意味です。この碑はひそかに村人が建立したとされています。



七ツ塚



明智城跡南東部(羽生ヶ丘方面)には、七ツ塚と呼ばれる直径1m規模の墳墓群が残っています。明智城落城の際の命を落とした者たちを弔うために築かれたとされています。